

女性の願いが実現できる政治の転換を

みんな、こんにちは。日本共産党（女性後援会）です。ただいまより、この場所をお借りして日本共産党の訴えをさせていただきます。

みなさん

いま、小林多喜二の「蟹工船」という小説が、多くの若い人たちに読まれているそうです。インターネットでは、日雇い派遣労働者の問題を取り上げた志位委員長の国会質問に注目が集まっています。自分たちの働き方や状況にぴったり当てはまると、共感がひろがっているんです。

アスベストの粉塵舞い散る中で、コンビニで買ったマスクをして作業をする日雇い派遣労働者。そのかわらでは、防塵マスクをした正社員が同じ作業をしている。こういう働かされ方をしているんです。これが、わが子、わが孫だったらと考えると胸が痛み、怒りがこみあげてきます。

志位委員長は「日本のモノづくりの労働者がこんな状態で日本の将来があるのか」とせまり、福田首相はついに実態調査を約束せざるを得なくなりました。若者たちをこんな状態にして、企業だけがもうけることをこのまま続けていいのでしょうか。

みなさん、

少子化の問題もいま、深刻になっています。「お金の心配をしないで子育てをしたい」「働きながら安心して子育てをしたい」と、多くの女性が願っています。

日本と同じ資本主義の国フランスは、いま出生率が2.005でベビーブームとなっているそうです。しかし、数年前までは日本と同じ少子化が深刻な問題となっていました。そこで、国全体で出生率向上をめざし少子化対策に乗り出しました。国民のくらしと権利を守るルール、働く人の権利を守るルールがきちんとあるフランスでは、政府も企業も一体となって手厚い子育て支援をすすめてきたのです。児童手当の削減や生活保護の母子加算廃止をすすめる日本とは大本から違います。

自民公明政治は財政が大変だからと、社会保障を削り続けてきました。しかし、本当に財源はないのでしょうか。あの、事故を起こしたイージス艦は1隻1400億円、米軍への思いやり予算は中小企業予算を上回る2300億円も使っています。ここにメスを入れるべきではないでしょうか。それから、大企業への行き過ぎた減税にもメスを入れ、空前の利益をあげている大企業には、もうけにふさわしい負担をさせるべきではないですか。

日本共産党は、格差と貧困が広がり、若者が安心して結婚や出産もできない社会を大本から転換すべきだと考えています。大企業の勝手放題を許さず、社会的責任を果たさせ、働く人たちの暮らしと権利を守るルールをつくる政治を、みなさんと一緒につくりましょうと呼びかけています。

みなさん、

薬害肝炎や生活保護母子加算廃止など、女性たちが勇気をもって立ち上がり、たたかって政治を動かす状況がつくられています。私たち日本共産党は、「国民の苦難あるところ共産党あり」の立党の精神で、切実な願いをもつ女性たちとともに運動をすすめ、実現のために力をつくしてきました。国民の立場で、相手が誰であってもきっぱりと物が言える日本共産党を大きくのばしてください。

日本共産党は、衆議院比例北海道ブロックで必ず議席を勝ちとる決意です。みなさんのご支援をよろしくお願いします。

（演説会の案内、「赤旗」の購読などと呼びかけましょう）